



第65期 中間報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

The Business Report



黒田精工株式会社

証券コード：7726

ごあいさつ



代表取締役社長 前田哲也

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに当社第65期中間期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）
の事業の概況をご報告申し上げます。
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜り
ますようお願い申し上げます。

平成20年12月

当第2四半期連結累計期間の概況

平成19年春から始まった米国の住宅ローン問題が、今年の夏には米国金融界、さらには欧州金融界を揺るがす事態に発展しました。このため金融不安が实体经济に及ぶことが懸念され、世界各地の株式市場で株価が急落し、経済の先行きが不透明なものとなりました。日本においても、こうした事態がわが国と関係の深い中国を始めとするアジア経済に悪影響を及ぼし、世界的な景気停滞に見舞われるのではないかという危惧が広がっております。

こうした状況の下、当社グループ主要製品のユーザーであるIT関連業界では、半導体市況の低迷が長引いており、半導体製造装置等の設備投資の回復はまだ望めない状況であります。また、液晶関連業界も液晶テレビパネルの価格下落や携帯電話等の市場飽和による減速を示しております。自動車関連業界も、折からのガソリン価格高騰や景気の先行き不安から、世界的に販売量が急激に落ち込む中、設備投資抑制の動きが顕著となりました。当連結会計期間の当社グループ製品の売上は、低調で8月からは急速に減少に転じ、前年同期比減収となりました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の受注高は6,930百万円（前年同期比△465百万円、6.3%減）、売上高は7,201百万円（前年同期比△575百万円、7.4%減）となり、利益面につきましては、売上減少に加え資材高騰・減価償却費の上昇等のコストアップ要因もあり、経常利益248百万円（前年同期比△219百万円、46.9%減）、純利益138百万円（前年同期比△125百万円、47.5%減）となりました。

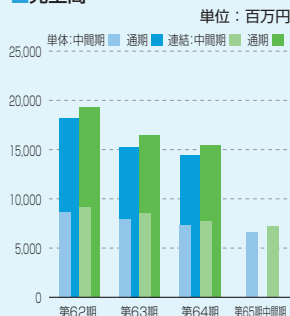
通期の見通し

当連結会計年度初めには、米国経済の減速の影響はある程度あるものの、国内や新興国においては需要の堅調な推移が期待できるとの見方から、下期から徐々に売上が伸長するものと予想しておりましたが、年央からの米国金融界を揺るがす一連の変動は非常に大きく、瞬く間に世界経済へ負の連鎖反応を引き起こしております。この景気不振が急速に回復に向かうことは少ないと予想され、当面は非常に厳しい環境が続くものと考えております。

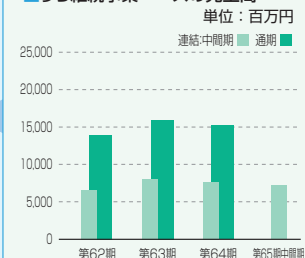
従いまして、残念ながら当社の受注・売上予想も大幅な下方修正の已むなきに至りました。当社グループの通期の連結業績は、売上高13,100百万円、経常利益110百万円、当期純利益60百万円と予想しております。

決算ハイライト

売上高

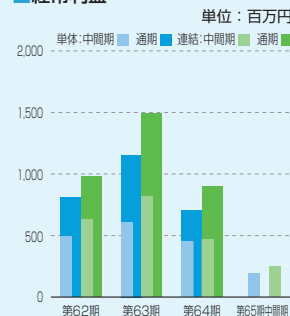


うち継続事業ベースの売上高

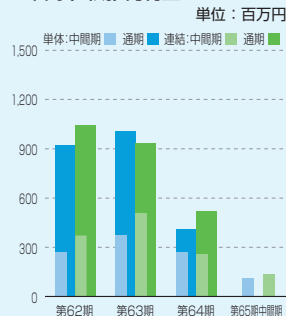


当社経由で販売しております空気圧機器のお客様には、持分法適用関連会社クロダニューマティクス株式会社の直接取引への変更を進めておりますので、継続事業ベースでの売上高を明示しました。

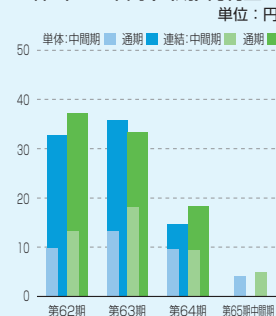
経常利益



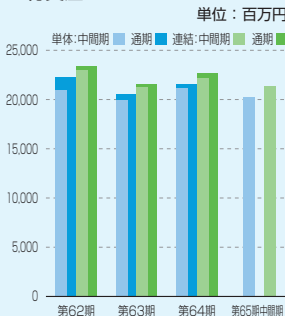
中間(当期)純利益



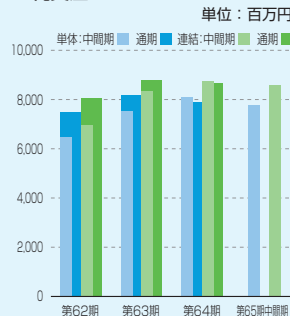
1株当たり中間(当期)純利益



総資産



純資産

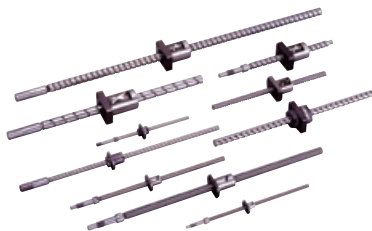


■精密機器部門

■ボールねじ

主要顧客である半導体製造装置業界、実装機業界が低迷を続ける中、比較的好調であった液晶、工作機械関連も8月より急速に受注減少の状況となりました。一方、医療機器、分析装置、太陽電池関連の引合いは堅調で、また、上記主要顧客業界でも次期機種開発の動きは活発でありましたが、当期の落込みを下支えするには至りませんでした。この結果、当第2四半期連結累計期間のボールねじ製品の売上高は2,229百万円（前年同期比4.6%減）となりました。

売上高	2,229 百万円
前年同期比	4.6%減

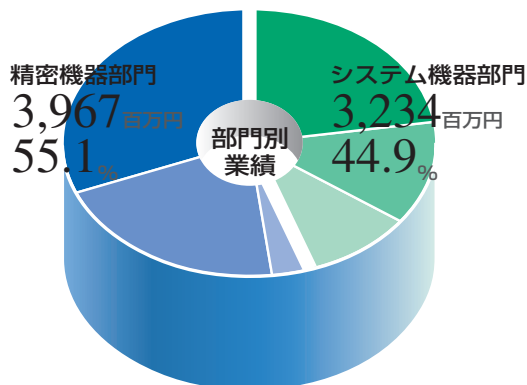


■空気圧機器

平成18年3月のクロダニューマティクス株式会社の株式売却以降、当社グループの空気圧機器の取扱いは、想定通り減少しており、現状では、コンプレッサーを扱うクロダインターナショナル株式会社の営業活動が中心となっております。この結果、当第2四半期連結累計期間の空気圧機器製品の売上高は235百万円（前年同期比33.5%減）となりました。

売上高	235 百万円
前年同期比	33.5%減

部門別売上構成比



■ツーリング・ゲージ

ツーリングは、主要顧客である自動車関連業界の販売不振による設備投資の先送りや凍結による需要減に見舞われたことに加え、航空機、建設機械業界にも翳りが見え始めたため、全般的に低調な推移となりました。また、ゲージも油井管メーカー向けと大手ユーザーからの受注が、ある程度下支えとなりましたが、ゲージ全体としては弱含みで推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間のツーリング・ゲージ製品の売上高は1,502百万円（前年同期比1.6%減）となりました。

売上高	1,502 百万円
前年同期比	1.6%減

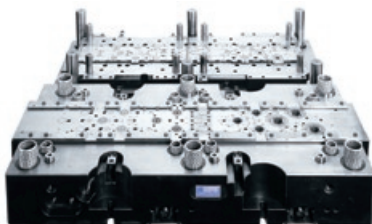


■ システム機器部門

■ プレス型

精密プレス金型は、景気の先行きに不透明感が強まる中、金型の新規設備投資に慎重になるメーカーもあり、一部で発注の先送りが見られる展開となりました。携帯電話搭載用の振動モーター向け超小型コアは、最終需要家の携帯電話販売の伸びの鈍化から、やや低調な受注となりました。ハイブリッド自動車搭載モーターコアの生産は順調に推移しております。この結果、当第2四半期連結累計期間のプレス型製品の売上高は1,636百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

売上高	1,636	百万円
前年同期比	12.0%	減



■ 工作機械

景況不透明の中、一般的に設備投資の先送り傾向が強まり、受注面では、第2四半期に入って景気減速を受けて急激に減少となりました。売上面でも、メンテナンス部門は順調に推移したものの、全体としては減収を余儀なくされました。この結果、当第2四半期連結累計期間の工作機械製品の売上高は888百万円（前年同期比11.1%減）となりました。

売上高	888	百万円
前年同期比	11.1%	減



■ 精密測定装置他

半導体市況の不振を受けて、シリコンウェハメーカーが新規設備投資に慎重となり、超精密表面形状測定装置（当社商品名：ナノメトロ300TT）の受注は停滞しました。液晶フォトマスク用大型平坦度測定装置（当社商品名：ナノメトロFTT1500）も、FPD業界が次世代に向けて調整局面を迎えており、新規投資冷え込みの影響を受けました。なお、セラミックプレート形状評価に使われる円盤用表面形状測定装置（当社商品名：ナノメトロ1300FR）一基が当期に出荷されました。この結果、当第2四半期連結累計期間の精密測定装置他製品の売上高は708百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

売上高	708	百万円
前年同期比	1.4%	増



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在
資産の部		
流 動 資 産	9,222	10,897
固 定 資 産	12,122	11,813
有 形 固 定 資 産	9,264	8,866
無 形 固 定 資 産	139	140
投 資 そ の 他 の 資 産	2,718	2,806
資 産 合 計	21,345	22,710
負債の部		
流 動 負 債	7,218	8,092
固 定 負 債	5,534	5,945
負 債 合 計	12,752	14,038

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 平成20年4月1日～ 平成20年9月30日	前中間期 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
売 上 高	7,201	7,776
売 上 原 価	5,589	5,908
売 上 総 利 益	1,611	1,867
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,389	1,476
営 業 利 益	222	391
営 業 外 収 益	183	202
営 業 外 費 用	157	126
経 常 利 益	248	467
特 別 利 益	1	—
特 別 損 失	6	4
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	243	463
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	77	202
法 人 税 等 調 整 額	11	△2
少 数 株 主 利 益	16	0
中 間 純 利 益	138	264

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

科 目	当中間期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在
純資産の部		
株 主 資 本	6,669	6,672
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	3,349	3,351
自 己 株 式	△6	△5
評 価・換 算 差 額 等	1,754	1,844
土 地 再 評 価 差 額 金	1,337	1,337
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	415	495
為 替 換 算 調 整 勘 定	0	11
少 数 株 主 持 分	168	155
純 資 産 合 計	8,592	8,672
負 債・純 資 産 合 計	21,345	22,710

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 平成20年4月1日～ 平成20年9月30日	前中間期 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
営 業 活 動 による キャッシュ・フロー	383	△49
投 資 活 動 による キャッシュ・フロー	△1,205	△1,287
財 務 活 動 による キャッシュ・フロー	△613	1,447
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	△15	26
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額	△1,450	136
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	3,958	3,267
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 中 間 期 末 残 高	2,507	3,404

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

会社の概況 (平成20年9月30日現在)

■ 会社の概要

商号 黒田精工株式会社
 本店 神奈川県川崎市幸区下平間239番地
 創業 1925年(大正14年)
 資本金 18億75百万円
 従業員数 519名

■ 連結対象会社の状況

連結子会社 クロダインターナショナル株式会社
 クロダプレジジョンインダストリーズ(M)(マレーシア)
 平湖黒田精工有限公司(中国)
 永昇電子株式会社
 持分法適用関連会社 株式会社ゲーシング
 日本金型産業株式会社
 株式会社モールド研究所
 クロダニューマティクス株式会社
 株式会社TGK

■ 当社グループの主要な事業

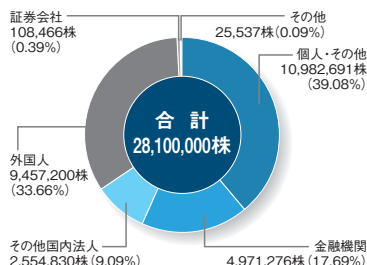
部門	製品グループ	主要製品
精密機器	ボールねじ	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ
	ツーリング・ゲージ	MCツーリング、専用ツーリング、ハイドロリックツール、微量潤滑油供給装置(当社商品名:エコセーバ)、その他各種保持工具、油井管用ねじゲージ、ねじゲージ、ブロックゲージ、一般ゲージ類
	空気圧機器	コンプレッサ、電磁弁、アクチュエータ、エアクリーン機器、省配線システム、各種補器類
システム機器	プレス型	積層精密プレス型(当社商品名:FASTEC型)、モータコア型、順送り用精密プレス型、精密金属プレス製品
	工作機械	平面研削盤(NC機を含む)、スーパーポリシングマシン
	精密測定装置他	超精密表面形状測定装置(当社商品名:ナノメトロ300TT)、液晶フォトマスク用大型平坦度測定装置(当社商品名:ナノメトロFTT1500)、パルスエンコーダ、医療用機器、電子機器

株式データ (平成20年9月30日現在)

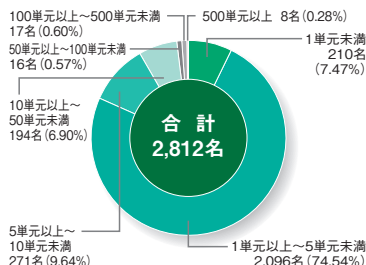
■ 株式の状況

発行可能株式総数 74,800,000株
 発行済株式の総数 28,100,000株
 株主数 2,812名

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有株式数別株主分布状況



■ 大株主

株主名	株式数(千株)	出資比率(%)
パーカー ハネフィン ユーケー株式会社みずほ銀行	9,400	33.48
黒田 浩史	1,381	4.91
黒田精工取引先持株会	1,169	4.16
中央三井信託銀行株式会社	821	2.92
株式会社横浜銀行	770	2.74
株式会社損害保険ジャパン	748	2.66
朝日生命保険相互会社	660	2.35
日本生命保険相互会社	500	1.78
株式会社ユウシュウコープ	443	1.57
	418	1.48

(注) 出資比率は自己株式(25,537株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
配当金支払株主確定日 3月31日
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会については3月31日その他必要がある時は、あらかじめ公告する一定の日。
公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。

http://www.kuroda-precision.co.jp/
ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
〔郵便物送付先〕 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〔電話照会先〕 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

株券電子化実施後の手続のお申出先について

平成21年1月5日(月曜日)から、上場会社の株券電子化が実施されます。これに伴い、上場会社の株券はすべて無効となり、株主様の権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理されますので、以下のとおり手続のお申出先が変更となります。

- 株券電子化後の未払配当金の支払のお申出先
これまでどおり、株主名簿管理人にお申出ください。
- 株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお申出先
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられている株主様：お取引証券会社等
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられていない株主様：特別口座を開設する下記口座管理機関
なお、②に該当される株主様につきましては、証券会社等のご本人様口座への振替請求を含めまして、お申出を受け付けることができるのは、特別口座に記録される予定日であります平成21年1月26日(月曜日)からとなりますのでご了承ください。

・口座管理機関 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
・同ご照会先 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〔郵便物送付先〕 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〔電話照会先〕 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
・同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

株券電子化実施前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて

株券電子化制度への移行に伴い、ほふりに株券を預けられていない株主様の単元未満株式の買取請求につきましては、次のとおりのお取扱いとさせていただきますのでご了承願います。

- 平成20年12月25日(木曜日)から平成21年1月4日(日曜日)(実質平成20年12月30日(火曜日))までに受付したものの買取代金の支払は平成21年1月26日(月曜日)とさせていただきます(買取価格はご請求日の終値となります。なお、平成20年12月30日までに値が付かない場合は返却させていただきます。)
- 平成21年1月5日(月曜日)から平成21年1月25日(日曜日)までの間、単元未満株式の買取請求の受付を停止します。
なお、ほふりに株券を預けられている株主様に関しましても、株券電子化直前に単元未満株式の買取請求の取次停止期間が設けられますが、詳細はお取引証券会社等にご確認ください。

黒田精工株式会社

本社/〒212-8560 神奈川県川崎市幸区下平間239番地
TEL/044-555-3800(代表) FAX/044-555-3524
http://www.kuroda-precision.co.jp/



再生紙を使用し、大豆油を利用したソイ・インキを使用しています。